



今回の紙面

- ◆地域医療最前線 NO. 62 《小川東明 院長》 ◆看護師さんのページ NO. 42 《大越美香 看護部門長》
- ◆研修医のページ NO. 45 《角 尚紀 先生》 ◆しまね初期臨床研修医合同研修会
- ◆平成 28 年度しまね研修ナビ



古里の夏風景（大田市）



NO. 62

安来市立病院

院長 小川 東明



当院は平成 27 年に開院 60 周年を迎えました。昭和 30 年 5 月に広瀬町・

布部村組合立病院（58 床）として診療開始して以来、幾多の変遷を経て、平成 16 年 10 月の市町村合併により安来市立病院となり、現在に至っています。病床の内訳は、一般病床 135 床（うち地域包括ケア病床 35 床）、療養病床 48 床の計 183 床です。

安来市は、松江市と米子市の間に位置し、出雲市や境港市などと共に中海・宍道湖圏域を形成する自治体のひとつです。人口約 4 万人、高齢化率 34% の市であり、中海と山の豊かな自然の中で育まれた歴史・文化と、ものづくりの伝統が脈々と息づいています。当院は、救急告示病院として長年に渡り、安来市の救急医療の中心的役割を担ってきました。特に近年、近隣の



2〜3 次救急医療機関の救急医不足が深刻であるため、これらの医療機関の疲弊を防ぐ意味でも、可能な限り当院で対応しようと頑張っています。また、広い市域の中では、無医地区を含む医療機関に恵まれない地域があり、診療所としての機能も果たしています。機能分化が進む今日ですが、多くの領域の専門医をそろえる事が困難な現状の中、専門外の幅広い役割を要求される時もあります。院内はもとより、院外の医療機関等との連携を密にするなど、できるだけ住民の期待に応えられるように業務を行っています。

なお、当院は島根大学と鳥取大学の間に位置しており、研修会などにも参加しやすい地理的環境にあります。そして、当院の近隣には日本庭園が有名な足立美術館や、尼子氏が治めた月山富田城址、美味しい地酒などもあります。

全国の病院数約 8 千のうち、200 床未満の病院は約 5 千 5 百（約 70%）を占め、当院は非常にポピュラーな大きさの病院です。大病院などの大病院で活躍される事は素晴らしい事ですが、この大きさの病院勤務を経験されることは、医師としての長い道のりの中で大変意義深いものと思われれます。

当院のように、1〜2 次救急に併せて、幅広い領域の医療を経験できる環境に興味をお持ちの方、1〜2 年の短期間の間でも一緒に働いてみませんか？

～まち紹介～



足立美術館 生の額絵（夏）

松江記念病院

看護部門長 大越 美香



当法人は、昭和61年4月、松江市上乃木宇賀の地に「ふれあいと健康をもとめて」を理念に、松

江記念病院を開設しました。現在は、保健・医療・福祉の3本柱で地域の皆様に満足していただける医療・看護・介護サービスの提供に努めています。看護職員は松江記念病院（172床）・訪問看護ステーションあゆみ・介護老人保健施設ナーシングセンターあけぼの（80床）の3施設で約90名が勤務しています。

私たちが看護職は地域包括ケアシステムのの中で、入院・入所されている皆様の退院支援を行い、その後、在宅で療養生活が行えるよう、外来・病棟・訪問看護・ショートステイ・通所リハビリテーションの場面で継続看護を行っています。

平成22年度より県内の老人看護専

門看護師を講師に招き、高齢者の症状マネジメント・倫理的な問題・認知症ケア等の事例を通して老人看護を学んでいます。今年度からは法人内の老人看護専門看護師が講師を務めています。また、平成25年度には終活緩和ケア委員会を立ち上げ、尊厳ある看取りと患者さまの旅立ちの前に御家族の心の準備ができるよう多職種でケアを行っています。



当法人には職員が仕事と家庭生活を両立させることができるように、多様な制度が整備されています。子どもの学童期の育児や自分自身の体調管理等のために「短時間正職員制度」を利用している職員もいます。また、独身の

職員や育児が一段落した世代が利用しやすい制度として「夜勤業務専従制度」があり、月単位で申請・利用が出来ます。認定・専門看護師教育課程・大学院への入学等の「自己啓発による資格取得の支援」もあり、仕事と学業を両立していくこともできます。

今後も私たち看護職は老人看護・在宅看護・地域看護等の知識・技術を深め、他職種と連携を行い、地域に開かれた信頼される施設づくりに努めたいと思います。

研修医のページ

浜田医療センター

2年目研修医 角 尚紀



夏空がまぶしく感じられるころとなりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。初めまして、研修医2年目の角尚紀と申します。どうぞよろしくお

願いたします。

さて、私は鳥取大学医学部附属病院の研修医ですが、昨年10月より浜田医療センターで研修をさせて頂いております。慣れない土地で、かつ知識も経験も浅い私は、赴任当初からご迷惑をおかけすることも多かったです。上級医の先生方をはじめとして、多くの病院スタッフの方々に温かくご指導を頂き、様々な面で支えて頂きながら毎日充実した研修ができています。また浜田という土地での生活も楽しんで



昨年4月に鳥取大学医学部附属病院で私の医師1年目がスタートしました。気付けば2年目を迎え、本当にあつという間に過ぎた1年間でした。4月か

らは後輩研修医も入ってきました。今の自分は、以前私が思い描いていたような2年目とは程遠く、正直不安や焦りを感じることも多くあります。しかし、日々の診療に対して十分な準備と反省を繰り返しながら真摯に向き合っていくことが、そういった不安を少しずつ解消してくれると信じ、日々奮闘しています。今は研修医としてこれから多くの事を学んでいく立場であると同時に、一人の医師として責任ある仕事をさせて頂いていることに非常にやりがいを感じています。

当然悩むことも多く、妥協しそうになることもあります。そういう時にはある先輩医師に言われた言葉を思い出します。『実際に働き始めてから1、2年間の姿勢で、今後の君の働き方が決まってくるという気持ちで研修をして下さい』という言葉です。その先生にとつては何て事のない話だったと思うのですが、もともと「後でやればいいや」という性格の私にとつては、大変印象に残り常に心に留めています。忙しい日々の中では、その時その時の学べる機会を逃すと「後で」はやってこないことが多いため、「後で」というのはなるべく考えないように心掛けています。加えて常に何かを学ぼうと

し続ける姿勢というの、医師としての仕事を続けていく上で生涯必要なことであり、今後も大事にしていきたいと思つています。日常診療でも、経験や知識の豊富な上級医の先生方が、「他に何かできることはないか」「もっと良い方法はないか」と、さらに高みを目指している姿を拝見する度に、向上心の大切さを実感しています。慌ただしく過ぎていく研修生活ではありませんが、自分の中の「医師としての軸」を定めていく期間にもしたいと思ひながら研修をしています。

私の浜田での研修は残すところ僅かになりましたが、最後まで食欲に学び、多くの事を吸収していこうと思つています。

最後になりますが拙い文章にお付き合い頂きありがとうございます。夏風邪などお召しになりませぬようご自愛くださいませ。

しまね初期臨床研修医 合同研修会

今年で3回目となる「しまね初期臨床研修医合同研修会」を島根県医師会との共催で、4月8日(金)～9日(土)の2日間、ホテルニューウエルシティ出雲で開催しました。医療発祥の地といわれる出雲に島根県内で初期臨床研修を開始する46名の研修医が一堂に会し、医師として学ぶべきこと、島根県で研修をはじめめる同期との連帯感の醸成を目的に研修を行いました。

1日目は4名の講師から「地域を支える病院の使命と医師の役割」、「Finding the roots of health」、「空想の翼で駆けて」、「医師におけるコミュニケーションを考える」という演題でお話をいただきました。

中村ブレイス株式会社・中村俊郎社長の講演「空想の翼で駆けて」では、けがや病気で体に障がいを受けた方のために、義肢装具製作の仕事に就く経緯や人との出会いの大切さ、出身地である大田市大森町で起業したことなどのお話があり、研修医からは『夢をもって行動すること、人との出会いの重要性を再認識させられた』、『これか

ら頑張つていこうと強く思わせていただきました』といった感想が寄せられました。



夜は、溝口善兵衛島根県知事にもご出席いただき、しまね大交流会を盛大に開催しました。名刺交換マナー講座に始まり、安来節のドジョウ掬い踊りや銭太鼓など、

島根ならではのアトラクションで盛り上がりました。和気藹々とした雰囲気の中、研修医同士、指導医等との交流

～まち紹介～



夏列車 (浜田市)

を深めることが出来たようです。また、知事も研修医一人ひとりと名刺交換や懇談をされ、島根県の医療を担う若き医師へ熱い期待を寄せられていました。

2日目は、ささえあい医療人権センターCOMLの山口育子理事長が患者の立場から「これからの医師に患者から望むこと」を、聖路加国際病院の福井次矢院長からは「医師としての使命感、プロフェッションナリズム」について講演頂きました。その後、各グループに分かれ、「将来、どんな医師になりたいか」についてディスカッションしました。最後に研修医が自身の目標をメッセージボードに書いて研修会は終了となりました。



参加した研修医の皆さんは、この2日間で医師として、社会人として必要なことを学び、多くの仲間と交流を深めることができたようです。また、この研修会が今後、初期研修の魅力アップと研修医の県内定着に繋がることを期待します。

【しまね地域医療支援センター 上野】

平成28年度
しまね研修ナビ

6月4日(土)に島根大学医学部看護学科棟において「平成28年度しまね研修ナビ」を開催しました。

県内8つの臨床研修病院が一堂に会し、医学生を対象に各病院からの研修状況の紹介や個別相談などを行い、島根大学医学部の6年生だけでなく、4・5年生も参加されたほか、県外大学からの参加者もあり、大変盛況でした。

全体説明会では、マッチングシステムなどが説明され、各臨床研修病院からのプレゼンテーションは医学生の目を引きつけていました。

全体説明会の後、病院毎のブースで個別相談を行いました。多くの医学生

が複数の病院ブースを廻って、各病院の研修プログラム等の説明を熱心に聞き、指導医や研修医に活発に質問する姿が見えました。そのことから、自分自身の将来を真剣に考えている様子が充分にうかがえました。



また、会場ロビーに設けられた喫茶コーナーでは、研修医や医学生同士の情報交換に花が咲いていました。

このしまね研修ナビを通じて、1人でも多くの医学生が県内の病院で研修してくれることを願うとともに、将来は島根県内で勤務され、地域医療を盛り上げていただきたいと思います。

【しまね地域医療支援センター 清水】

島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた先生には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

医師募集・地域医療視察ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアー（県負担）を実施しています。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室
TEL 0852-22-5693 FAX 0852-22-6040
E-Mail iryuu@pref.shimane.lg.jp
ホームページ：[島根の医師確保対策](#)

